

# コメデイカル

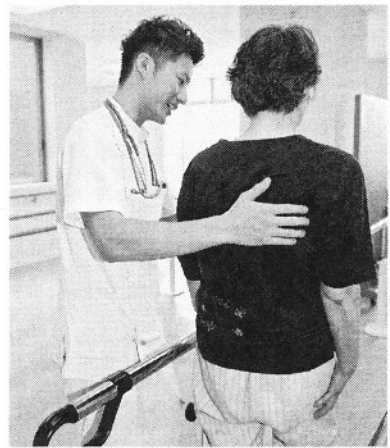
リハビリ開始時、終了時のBRSレベル (麻痺の回復程度)

BRS上

BRS手

人工股関節全置換術(T  
H A)のアプローチによる  
筋間侵入により筋組織を  
傷つけず、侵襲が少ない。  
アプローチが、側方アプロ  
同病院では、双方の患者

に差を感じるものの、具  
チ群8人の計18人。手術



アプローチごとのパスの  
作成が課題

歩行器歩行自立目  
立つた差は認められな  
ったが、杖歩行自立目  
前方群の8・6±4・4  
日に対し、側方群はそ  
2倍と有意差があった。  
退院時の独歩能力も、  
前方群は10人中8人、側  
方群は8人中3人と開  
きがあり、在院日数につ  
いても、それぞれ21・1土  
道内11月事業者指定  
訪問看護など7件  
介護サービス  
道がまとめた介護保  
障サービス事業所の11月分

道臨床工学会は、会員が1千人を超え、支部制の導入を検討。地域のセミナー事業など活動を広域化しているのに加え、災害時の情報共有体制の構築を目指している。大宮裕樹会長に、今後の展開について聞いた。

## 道臨床工学会会長 大宮裕樹氏

—支部制導入のねらいについて

当会は1989年に職能団体として設立し、2003年に社団法人化。10年には公益社団法人へ移行した。会員数は、年々増加しており、17年9月の時点で1124人となった。

公益活動の一つとして、近年は広域セミナー事業を展開している。臨床工学会士向けの勉強会や講演会などに加えて、AED設置施設の要請を受け、取り扱いや管理方法などの無料啓発活動に

# 専門職に聞く



力を入れている。AEDは日常的な点検が必要な上に、耐用年数が決まっており、買い替えが必要となる。今後、各地域で活躍する技士とさまざまな施設のAEDの連携が重要になる。こい。支部制とともに進めて

力を入れている。

## 大宮裕樹氏

るため、専属の管理者がいない場合は、こうした基本的な保守・管理についてしっかり理解してもらう必要がある。そのため、専属の管理者がいない場合は、こうした基本的な保守・管理についてしっかり理解してもらう必要がある。

1973年5月13日生まれ。札幌東徳洲会病院、札幌南青洲病院(現・札幌南徳洲会病院)を経て、2005年からKKR札幌医療センターに勤務。

# 支部制導入を準備

## 災害時の連携体制構築へ

いるプロジェクトが、当  
会独自の災害対策マニ  
アルの作成と情報共有  
体制の構築だ。

東日本大震災では、被  
災地における透析の継  
続得・更新に必要な単  
位が大きな問題とな  
った。取れるセミナー  
また、透析以外の医療  
器の準備も必要となる。  
増やし、入会者増を  
器の準備も必要となる。  
増やし、入会者増を  
器の準備も必要となる。  
増やし、入会者増を

そこで、地域ごとに災  
害情報コーディネーター  
を任命し、災害時には担  
当地域内の臨床工学会  
と連絡を取り合い、情  
報を集約するとともに、  
隣地域と調整し、必要  
機器の調達や技士派遣  
どの迅速対応につな  
がれた。

この制度を円滑に進  
めるためにも、支部制  
入は必須となる。  
一課題と今後につ  
毎年、道内では150  
人ほどの技士が誕生